

クラス	TU313	担当教員	三橋広夫
テーマ	東アジアに向き合う歴史教育		
著書・論文 研究課題等	<p>著書には『歴史の授業を工夫する—中学生の疑問を解決する歴史民俗博物館の展示』（歴史民俗博物館振興会、2003年）、『これならわかる台湾の歴史Q&amp;A』（大月書店、2012年）などがある。『検定版 韓国の歴史教科書—高等学校韓国史』（明石書店、2013年）など韓国の歴史教科書や鄭在貞<sup>チョンジェジョン</sup>『帝国日本の植民地支配と韓国鉄道』（明石書店、2008年）を翻訳している。私たちに内在化しているナショナリズムを相対化する歴史教育を韓国の教師たちとともに考え、追求することを研究課題としている。</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：歴史教育 社会科教育 歴史認識 東アジア 授業方法			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b>歴史教育は、ややもすると独りよがりの国民意識に寄りかかり、教科書や教師の論理を子どもたちに押しつけがちです。戦前の「国史」教育はその最たるものでした。戦後の日本は、帝国の遺産を清算することなくひたすら国民意識を追い求め、その結果、アジアの人々の思いに気づくことがありませんでした。冷戦構造の中でアメリカとの関係から自らの立ち位置を決めるという発想は、明治以来の脱亜意識を省みることなく、そのまま続けていくことを表しました。鎖国／開国論はそのよい例といえます。開国論は、近代化を余すところなく美化します。近代化することが自明であるかのような錯覚を私たちに与えます。その開国論を支えるのが、江戸時代＝鎖国という論理です。「江戸時代に鎖国をしていたので世界に遅れをとった」という強迫観念は近代への憧れをつくりだし、開国＝近代化されていないアジアは取るに足らないという意識を「日本国民」に強烈に植え付ける役割を果たしました。</p> <p>一方で、現実をどう認識するかは、歴史意識と裏表の関係にあると言ってよいでしょう。その根底には歴史や現実を意識するとき国家を単位とする思考があります。これを歴史教育から考えると、沖縄や北海道の子どもたちが、なぜ平城京や平安京の歴史を学ばなければならないのかということになります。また、最初のページに桜が満開の絵が挿入されている小学校1年生用国語教科書があります。4月に桜が咲かない地域の子どもたちもこれを学ぶのです。</p> <p>ナショナリズムを克服し、近代国民国家の論理を乗り越えて、世界の平和に貢献することをねらいとする授業も散見されます。しかし、そうした教師の思いが強いほど一方的に教師の思いを伝える授業となる傾向があります。ここに大きな矛盾があります。伝達式の授業は近代教育の中でつくられ、したがって「国民づくり」の教育にふさわしい方法でした。国民国家の論理をうち破ろうとする内容をその論理を補強する方法で実践することはできません。そこで、新しい授業の枠組みとその授業を支える思想を構築しなければならないことになります。その授業は、教師と子どもたちが紡ぎ出す、きわめて個性あふれる作業になります。そのため実践的に取り組もうとすれば、内容・教材・方法・子どもたちの意識などを総合的に考えなければなりません。時には、子どもたちの意識が授業の内容をも決定することがあります。このことを踏まえて、ゼミではどのような授業を構想するかを追求します。</p> <p>個人またはグループでいくつかのテキストを読み、それにコメントをし合います。そのコメントこそが問題意識を鍛えるものですから、じっくりと取り組んでください。また、国内外のフィールドワークもします。実際に現地に行き、そこで感じることに大きな意味があります。その地域から歴史を考えるきっかけになるかもしれません。さまざまな研究会にも参加します。現場の教師や研究者の問題意識に触れたいと思います。</p> <p>このような活動を通じて、みなさんの研究課題が自ずと明確になり、卒業論文制作の糧になるでしょう。</p>			
<b>当教員からのメッセージ</b>			
<p>上は私の問題意識の一端を述べただけです。みなさんは、今の世界を歴史的にどうとらえ、そしてどのように授業を実践していけばよいかを具体的に考えることが必要です。自分なりの問題意識からそれぞれがテーマを設定し、他の学生の問題意識や視点を学びつつ、歴史教育・社会科教育について考えていきましょう。</p> <p>また、社会認識教育演習、政治学演習、日本史演習、社会科教育専門演習が併設になります。</p>			